



公益財団法人SAJ
SAJ Farm 通信
2010年 vol.3

公益財団法人
School Aid Japan
〒144-0043
東京都大田区羽田 1-1-3
TEL: 03-5737-2773
FAX: 03-5737-2793
<http://www.schoolaidjapan.or.jp>
sajinfo@schoolaidjapan.or.jp

～SAJ Farmの初収穫はトウモロコシ！～

77 人の子どもたちが暮らす家、「夢追う子どもたちの家」。今月の SAJ Farm 通信は、この園に隣接する農場の様子から、皆さんにお届けします。

SAJ Farm では、コンポンチュナン州にある 13ha の農場と、この園に隣接する約 2ha の農場の運営も行っております。もちろん有機の安心・安全な農業を行っていきます。

この農場も、もともとは雑木がうっそうと茂る荒れた大地でした。実は、この農場での開墾作業の口火を切ってくれたのは、なんと園の子どもたちでした。園の農作業の時間に、子どもたちがこの雑木を次々に切ってくれました。初めは雑木しか見えなかったこの大地ですが、子どもたちの活躍で、2ha もある農場全体が見渡せるくらいまでになりました。

その後は、どうしても取りきれなかった木の根などを土木業者に取り除いてもらって、SAJ Farm のスタッフがトラクターで土を耕して、農場が出来上がりました。

それから雨季に入り、7月。最初の作物を育てようと、トウモロコシの種を播きました。初めは、雨も十分に降ってくれなかったためか、このトウモロコシ、弱々しくて、実を付けてくれるのか心配していたほどです。でも、2ヶ月経つとビックリ。大人の背丈を越えるトウモロコシが一面に広がりました。実も中身がしっかりと詰まっております。沢山ついてます。

そして、待ちに待った収穫です。園の子どもたちが中心となって、一緒にトウモロコシの収穫。当初、30分くらいはかかるだろうなー、と予想していたのですが、子どもたちの勢いのものすごいこと。その持ち前の元気さで、どんどんトウモロコシを取ってはバスケットに詰めていきます。わずか10分ほどで作業は終わってしまいました。子どもたちの一所懸命に楽しく働いてくれる姿には、いつも感心させられます。

この、子どもたちの採ったトウモロコシはその後、保母さんの手に渡り、大きな釜で茹でられました。そして、昼ごはんが終わったところに茹で上がり。みんな昼ごはんでお腹いっぱいになっているはずなのに、トウモロコシを美味しそうにパクパク。見ているこっちが嬉しくなります。

さて、肝心のトウモロコシの味はと言うと。なんと、市場買って食べるものよりも甘い！本当です。SAJ Farm 初の収穫、大成功となりました。

将来、この園に隣接する農場では、園の子どもたちが食べる野菜の自給を行っていかこうと考えています。まるでお母さんがわが子に食べさせてあげたくなるような、そんなおいしい野菜をどんどん作っていきます！



沢山、採れました！！

～田植えから2ヶ月。今、田んぼは？～



砂地の田に植えた稲



実のつかない穂が出始めている稲

代わって、コンポンチュナン州にある 13ha の農場です。今回は、7月 22 日に「夢追う子どもたちの家」の子どもたちみんなと田植えをした田んぼについての様子をお知らせします。

記録的な雨の少なさとなっている今年のコンポンチュナン州。田植えが行われたあと約 1 週間、まともに雨が降りません。本当に雨季なの、と言いたくなるほどです。ポンプで川の水を引きながら、どうにかこうにか枯らすことなく育てていきました。

そして、田植えから約 2 ヶ月。稲の状態はというと。少しずつ育ってくれていますが、やはりカンボジアでの農業、なかなかうまくいきません。田んぼの稲は、全体的に背丈が低く葉の色も緑が強く出てはくれていません。場所によっては穂が出始めてしまっています。通常収穫まで 4 ヶ月かかる品種を用いているにもかかわらず、種を播いてから 3 ヶ月足らずで穂が出てしまいました。

当初これを見て初めは、「やった、お米が出来た」と喜んでいましたが、実はこれが生育不良。田んぼからの養分が足りなくてこれ以上成長できないということから、枯れてしまう前に子孫を残

そうと実をつけているとのことでした。つまり、十分生育できないまま、実をつけているのです。当然この稲から採れるお米は多くありません。こんなことから、今期この田んぼで取れるお米の量は、カンボジアの平均並で、予想したものより収量は低くなりそうです。

今、SAJ Farm では、来期の稲作に向け対策を始めています。この国、カンボジアでのお米の収量が少ない原因は、①土の肥沃度の低さ、②水が抜けてしまう砂地の田の管理の 2 つだと考えています。SAJ Farm では、②の水の管理については、貯水池や井戸を掘るなどして、灌漑設備を整備することによって克服できると思います。

問題なのは、雨が降ってもすぐに水が抜けてしまい、水が貯まらない砂地の水田です (SAJ Farm の土はほとんど砂地です)。湿った砂地の中に稲が植わっている状態です。その上、肥料を入れても水とともに抜けてしまいますので、当然生育は悪く、収穫もあまり期待できません。そこで、SAJ Farm では、水が抜けてしまう砂地の水田を、水が貯まる水田に変える実験をしています。それは、砂地の水田に粘土を入れ、砂と粘土をかき混ぜて、圧を加えて水田の床をつくり、水が漏れない田にするための実験です。5 m 平方の小さな田を何枚かつくり、加える粘土の量を変えて、どのくらいの量の粘土が最適かを検討します。水が抜けない田をつくれれば、肥料も稲に行き渡ります。この水田づくりが、安価で完全に出来れば、カンボジアの農業に一大変革を起こし、農業生産は飛躍的に向上すると予想されます。

編集後記

初収穫のトウモロコシ。実は、なかなか園に行けない私たち SAJ Farm の代わりに、園の農場の様子を毎日、孤児院スタッフの西口さんが報告してくれていました。SAJ スタッフ全員、情熱のある良い仲間です。皆、カンボジアでがんばっております。